

## 1 適用範囲

本資料は、土工量 1,000m<sup>3</sup> 未満（※）の ICT による土工（以下「土工（ICT）（1,000m<sup>3</sup> 未満）」という。）に適用する。

※：土工量 1,000m<sup>3</sup> 未満とは、1 か所当りの施工土量が 1,000m<sup>3</sup> 未満の場合をいう。

## 2 機械経費

### 2-1 機械経費

土工（ICT）（1,000m<sup>3</sup> 未満）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。

#### ①土工 1,000m<sup>3</sup> 未満（ICT）

ICT 建設機械名	規格	機械経費	備考
バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値)、 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上

### 2-2 ICT 建設機械経費加算額

#### 2-2-1 損料加算額

ICT 建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器および地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち損料にて計上する ICT 建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

#### (1) 土工 1,000m<sup>3</sup> 未満（ICT）

対象建設機械：バックホウ

損料加算額：5,470 円/日

### 2-3 その他

ICT 建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

#### 2-3-1 保守点検

ICT 建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

#### (1) 土工 1,000m<sup>3</sup> 未満（ICT）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05 (\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m}^3\text{)}}{\text{作業日当り標準作業量(m}^3\text{/日)}}$$

(注) 作業日当り標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。

(注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。

#### 2-3-2 システム初期費

ICT 施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

#### (1) 土工 1,000m<sup>3</sup> 未満（ICT）

対象建設機械：バックホウ

費用：ICT 建設機械経費損料加算額に含む

### 3 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、3次元起工測量を実施した場合は、3次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。

### 4 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用

原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受発注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適正に積み上げるものとする。

### 5 積算方法

受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、[ICT 建設機械使用割合 100%]を用いて積算するものとする。

#### 【参考】

#### 1 施工歩掛

##### (1) 土量の表示

すべて地山土量で表示する。

##### (2) 土質区分

日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。

表 1.1 土質区分

土 質 名	分類土質名
レキ質土, 砂利混り土, レキ	レキ質土
砂	砂
砂質土, 普通土, 砂質ローム	砂質土
粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土	粘性土
岩塊・玉石混り土, 破碎岩	岩塊・玉石

#### 1-1 オープンカット（バックホウ掘削）

##### (1) 日当り施工量

オープンカット（バックホウ掘削）の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 1.2 オープンカット（バックホウ掘削）日当り施工量（1日当り）

作業の内容	名 称	土質名	規 格	単位	数量	
					障害	障害
オープンカット 1,000m <sup>3</sup> 未満	バックホウ (クローラ型) 運転	レキ質土・砂・ 砂質土・粘性土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	m <sup>3</sup>	169	83
		岩塊・玉石	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	〃	129	64

## 1－2 片切掘削

## (1) 日当り施工量

片切掘削の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 1.3 片切掘削（人力併用機械掘削）日当り施工量（1日当り）

作業の内容	名称	土質名	規 格	単位	数量
片切掘削 1,000m <sup>3</sup> 未満	バックホウ(クローラ型)運転	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	m <sup>3</sup>	164

(注) 1. 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。  
なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。  
2. 上表にクレーン作業は含まない。

## (2) 人力掘削歩掛

片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛は、次表を標準とする。

表 1.4 片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛（100m<sup>3</sup> 当り）

名 称	土 質 名	単位	数量
普通作業員	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	人	3.9

(注) 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。  
なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。

1－3 法面整形工（1,000m<sup>3</sup> 未満）

## (1) 日当り施工量

法面整形工（ICT施工）における日当り施工量は、次表を標準とする。

表 1.5 日当り施工量（m<sup>2</sup>/日）

整形箇所	作業区分	土 質	標準施工量
盛土部	削取り整形	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	164
	築立（土羽）整形	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	104
切土部	切土整形	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	104
		軟岩（I）	89

## (2) 施工歩掛

## 1) 盛土法面整形

## ①削取り整形

本歩掛は、築立（土羽）部を本体と同一材料（土）で同時に施工し、機械で法面部を削取りながら整形する場合に適用する。

表 1.6 削取り整形歩掛（100m<sup>2</sup> 当り）

名 称	規 格	単 位	土 質	
			レキ質土 砂及び砂質土 粘 性 土	
土木一般世話役		人	0.24	
普通作業員		〃	0.36	
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	0.61	

(注) 1. バックホウ（法面バケット付）賃料は、バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。  
2. 本歩掛には、残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。

## ②築立（土羽）整形

本歩掛は、土羽土部分の敷均し・締固め及び整形を機械で行う場合に適用する。

表 1.7 築立（土羽）整形歩掛（100m<sup>2</sup> 当り）

名 称	規 格	単 位	土 質	
			レキ質土 砂及び砂質土 粘 性 土	
土木一般世話役		人	0.44	
普通作業員		〃	0.47	
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	0.96	

(注) 1. 本歩掛には、土羽土の搬入等は含まない。  
2. 本歩掛には、土羽土の現場内小運搬（20m程度）及び残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。  
3. バックホウ（法面バケット付）賃料は、バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。

## 2) 切土法面整形

## ①切土整形

本歩掛は、機械による切土整形に適用する。表 1.8 切土整形歩掛（100m<sup>2</sup> 当り）

名 称	規 格	単 位	土 質	
			レキ質土 砂及び砂質土 粘 性 土	軟岩（I）
土木一般世話役		人	0.49	0.65
普通作業員		〃	0.40	0.56
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	0.96	1.12

(注) 1. 本歩掛には、残土の積込み、運搬、並びに法面保護は含まない。  
2. 片切掘削（人力併用機械掘削）の領域については、全面積に適用する。  
3. 一度法面整形を完成した後、局部的に浸食・崩壊を生じた場合、保護工を施工する前に行う整形作業（二次整形）を必要とする場合は、人力施工とする。  
4. バックホウ（法面バケット付）賃料は、バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。

## 2 単価表

(1) オープンカット（バックホウ掘削）100m<sup>3</sup> 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	日	100/D	表 1.2
諸 雑 費		式	1	(まるめ)
計				

(注) D：日当り施工量

(2) 片切掘削（人力併用機械掘削） 100m<sup>3</sup> 当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表1.4
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山 積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	日	100/D	表1.3
諸 雑 費		式	1	(まるめ)
計				

(注) D：日当り施工量

(3) 削取り又は築立（土羽）及び切土整形 100m<sup>2</sup> 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表1.6, 表1.7, 表1.8
普 通 作 業 員		〃		〃
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日		表1.5 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) D：日当り施工量

## （4）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
バックホウ （クローラ型） （オープンカット）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積 0.45m <sup>3</sup> （平積 0.35m <sup>3</sup> ）	機－33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械損料数量→1.33
バックホウ （クローラ型） （片切掘削）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値）山 積 0.45m <sup>3</sup> （平積 0.35m <sup>3</sup> ）	機－33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械損料数量→1.33
バックホウ （クローラ型） （法面整形）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値）山 積 0.45m <sup>3</sup> （平積 0.35m <sup>3</sup> ）	機－33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械損料数量→1.33